

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

技 術 情 報

果樹カメムシ類の防除対策（技術情報第11号）について（送付）

このことについて、下記のとおり取りまとめましたので、参考資料としてご活用下さい。

記

7月下旬以降、予察灯での果樹カメムシ類の誘殺数が急激に増加しています。特に天草地域など県南部において、平年を大きく上回る数が誘殺されています。9月上旬以降に果樹園への飛来が増加する可能性が高まっており、カンキツ類やカキ、ナシなどで、今後注意が必要です。カメムシ類の飛来する時期や量は、場所によって異なりますので、果樹園および周辺の飛来状況の把握に努めましょう。

1 発生状況

- (1) 合志市（農研センター）と天草市（天農研）の予察灯での果樹カメムシ誘殺数は、7月下旬から増加し始め、8月上旬から急激に増加している（図1）。本年8月上中旬の誘殺数を平成14年の多発生と比較すると、合志市では、チャバネアオカメムシは約2.5倍、ツヤアオカメムシは約10倍の誘殺数、天草市では、チャバネアオカメムシは同程度からやや多く、ツヤアオカメムシは約10倍の誘殺数となっている（図1）。
- (2) 今年はツヤアオカメムシが多く誘殺されており、8月1～4半旬までの誘殺数は、合志市で427頭（平年値48頭）、天草市で8057頭（平年値148頭）となっている。
- (3) 県内4地点（合志、大津、宇城、天草）から8月上旬に採取したヒノキ球果の1球果当たり平均口針鞘数は、合志、大津、天草では2.7～6.6本と比較的少なかったが、宇城では20.7本であった。また、果樹研究所内（宇城市松橋）ヒノキ球果の口針鞘数は2.4であった（表1）。
1球果当たりの口針鞘数が25を超えると、カメムシはヒノキ球果から離脱する。
- (4) 現在のところ、天草・宇城地域でわずかに被害が見られるが、大規模な被害の報告はない。口針鞘数の状況から、果樹園への飛来は9月上旬以降になると予測される。

2 防除対策

- (1) この時期のカメムシは、主にヒノキ・スギの球果を餌として成長し、餌がなくなると果樹園に飛来するので、樹園地付近のヒノキ・スギでの発生状況に注意する。
- (2) カメムシは、局地的に飛来し加害する傾向があり、同一園内でも局在することがあるので、園内をよく見回り早期発見に努める。過去に集中加害のあった場所は、特に注意する。
- (3) 果樹園への飛来や被害を確認したら、薬剤を散布する。散布にあたっては、対象作物および対象害虫に登録のあるものを使用し、散布濃度、使用回数、使用時期等についてはラベルの記載を遵守する。
- (4) 薬剤散布によって、他の害虫（ハダニ類、カイガラムシ類など）が増加することがあるので、注意する。

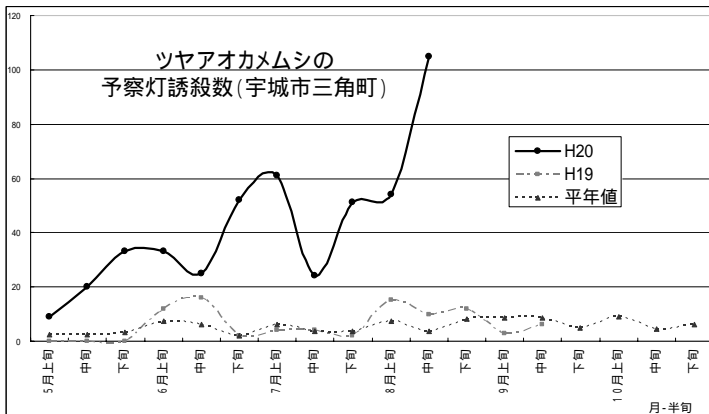
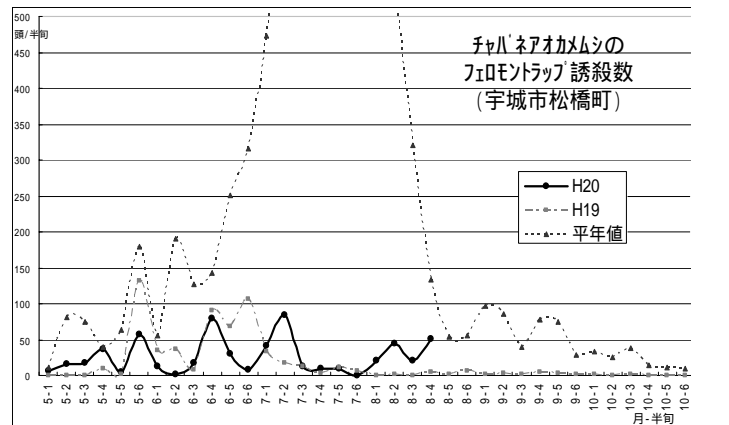
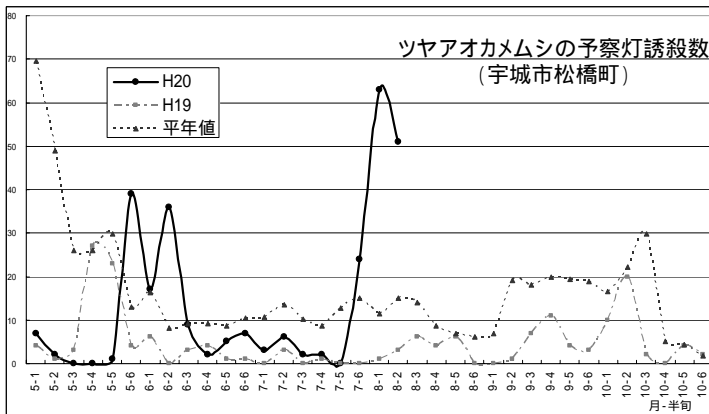
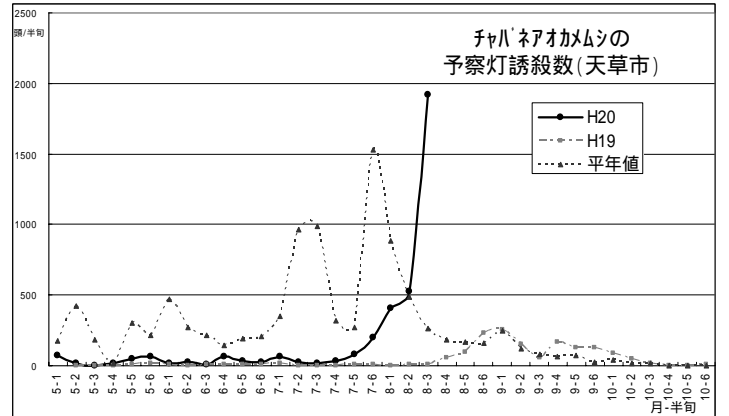
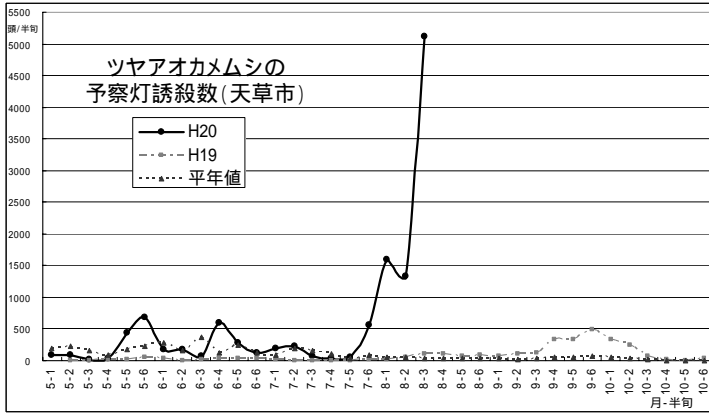
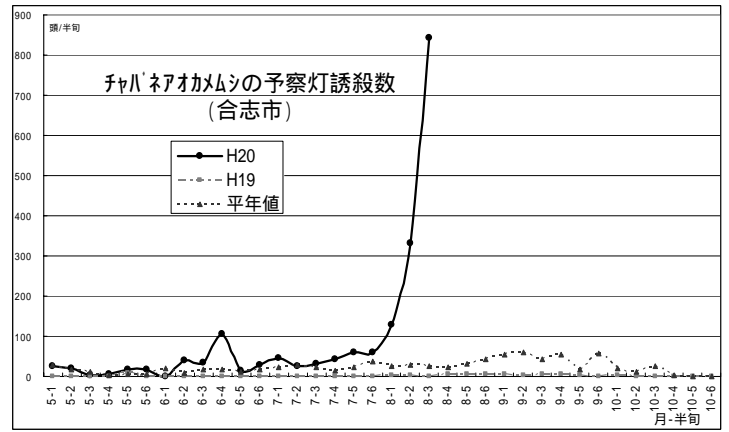
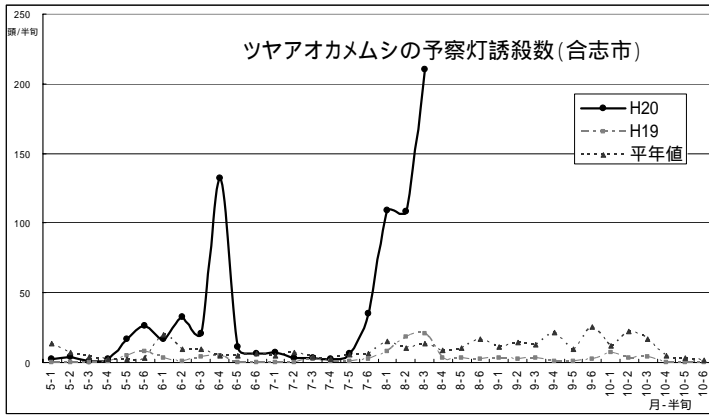


図1．予察灯誘殺数の推移

表1．ヒノキ球果における
果樹カメムシ類の口針鞘数

地点	口針鞘数(本/果)	
	7月	8月
合志市(農業大学)	0.8	6.6
大津町	0.1	2.7
宇城市(岡岳グラウンド)	1.9	20.7
天草市(天農研)	-	4.4
宇城市(果樹研究所)	-	2.4

熊本県農業研究センター 生産環境研究所病害虫研究室

予察指導係（病害虫防除所） 担当：福永

TEL 096-248-6447 FAX 096-248-6493